

研究代表者	所属学系・職名 経済学系・教授 氏名 荒井 聡																																																
研究課題	営農組織の再編による農家所得の向上とコミュニティの活性化に果たすJAの役割に関する研究 Study on the role of JA in improving farmer income by reorganizing farming organizations and activating the community																																																
成果の概要	<p>荒井聡「集落域を超えた集落型農業法人の形成条件と機能 福島・岐阜・熊本の3事例の比較研究」『福島大学地域創造』、31(1)5-18、2019年に成果の一部を公表した。概要は以下の通りである。</p> <p>既存の集落営農の再編や統合により、集落の領域を越えた集落営農が形成されてきている。単一集落を基礎とする集落営農の、規模の制約を補い、「規模の経済」の発揮により農用機械と農地の効率的利用が可能となってきている。これに加え、新作物の導入、新たな輪作体系の確立など「範囲の経済」も発揮されることで、新たな営農システムを形成して担い手を安定的に確保しようとしている。これと並行して、一部非農家をも取り込んで、農地の維持管理体制が作られてきている。対象とした集落の領域を越え広域的に展開する3集落営農法人の事例概要は表の通りである。</p> <p style="text-align: center;">表 対象とした広域型集落営農法人の概要比較</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">集落営農名称</th> <th style="text-align: center;">ほりこしフォーライフ ほりこし創生会</th> <th style="text-align: center;">ファーム佐見</th> <th style="text-align: center;">ネットワーク大津</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>所在自治体</td> <td style="text-align: center;">福島県田村市</td> <td style="text-align: center;">岐阜県加茂郡白川町</td> <td style="text-align: center;">熊本県菊池郡大津町</td> </tr> <tr> <td>基礎とする領域</td> <td style="text-align: center;">旧七郷村大字堀越</td> <td style="text-align: center;">旧佐見村大字上佐見</td> <td style="text-align: center;">旧大津町 + 3旧村</td> </tr> <tr> <td>構成集落数</td> <td style="text-align: center;">4集落</td> <td style="text-align: center;">5集落</td> <td style="text-align: center;">12集落</td> </tr> <tr> <td>従前組織との関連</td> <td style="text-align: center;">継承・改組</td> <td style="text-align: center;">統合</td> <td style="text-align: center;">統合</td> </tr> <tr> <td>設立年</td> <td style="text-align: center;">2017年</td> <td style="text-align: center;">2019年</td> <td style="text-align: center;">2013年</td> </tr> <tr> <td>類型</td> <td style="text-align: center;">2階建オペ型</td> <td style="text-align: center;">ぐるみ型</td> <td style="text-align: center;">ぐるみ型 + 担い手</td> </tr> <tr> <td>農業経営、作業実行組織</td> <td style="text-align: center;">株式会社</td> <td style="text-align: center;">農事組合法人</td> <td style="text-align: center;">株式会社</td> </tr> <tr> <td>構成員数</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">198</td> <td style="text-align: center;">288</td> </tr> <tr> <td>経営面積</td> <td style="text-align: center;">36ha</td> <td style="text-align: center;">49ha</td> <td style="text-align: center;">323ha</td> </tr> <tr> <td>土地利用調整組織</td> <td style="text-align: center;">一般社団法人</td> <td style="text-align: center;">同法人・集落組織</td> <td style="text-align: center;">同会社・集落組織</td> </tr> <tr> <td>構成員数</td> <td style="text-align: center;">211</td> <td style="text-align: center;">(198)</td> <td style="text-align: center;">(288)</td> </tr> </tbody> </table> <p>資料:各集落営農組織資料等から作成</p>	集落営農名称	ほりこしフォーライフ ほりこし創生会	ファーム佐見	ネットワーク大津	所在自治体	福島県田村市	岐阜県加茂郡白川町	熊本県菊池郡大津町	基礎とする領域	旧七郷村大字堀越	旧佐見村大字上佐見	旧大津町 + 3旧村	構成集落数	4集落	5集落	12集落	従前組織との関連	継承・改組	統合	統合	設立年	2017年	2019年	2013年	類型	2階建オペ型	ぐるみ型	ぐるみ型 + 担い手	農業経営、作業実行組織	株式会社	農事組合法人	株式会社	構成員数	7	198	288	経営面積	36ha	49ha	323ha	土地利用調整組織	一般社団法人	同法人・集落組織	同会社・集落組織	構成員数	211	(198)	(288)
集落営農名称	ほりこしフォーライフ ほりこし創生会	ファーム佐見	ネットワーク大津																																														
所在自治体	福島県田村市	岐阜県加茂郡白川町	熊本県菊池郡大津町																																														
基礎とする領域	旧七郷村大字堀越	旧佐見村大字上佐見	旧大津町 + 3旧村																																														
構成集落数	4集落	5集落	12集落																																														
従前組織との関連	継承・改組	統合	統合																																														
設立年	2017年	2019年	2013年																																														
類型	2階建オペ型	ぐるみ型	ぐるみ型 + 担い手																																														
農業経営、作業実行組織	株式会社	農事組合法人	株式会社																																														
構成員数	7	198	288																																														
経営面積	36ha	49ha	323ha																																														
土地利用調整組織	一般社団法人	同法人・集落組織	同会社・集落組織																																														
構成員数	211	(198)	(288)																																														

成果の概要	<p>福島県田村市堀越地区の事例は、同地区を対象とする圃場整備の実施が集落営農作りの起点となった。事業の終了とともに、当初から大字・4集落を対象とする土地利用調整組織、受託組織が形成された。土地利用組織は非農家をもとりこんだものに展開し、一般社団法人化する。2階部分は、生産組合を改組して個人担い手グループを組織したものとなった。4集落の領域で担い手が複数確保されることにより、受託システムが安定化する。新規就農の受け皿としての機能も期待されている。</p> <p>岐阜県白川町上佐見地区の事例では、大字・5集落で3つの集落営農法人が合併、任意組織の構成員も取り込んで新たな集落営農法人が形成された。集落間の機械の共同利用の取り組みから出発し、さらに農地の再整備という地域農業振興の課題を共通に実現するために組織が作られた。新作物栽培、新規就農者の育成も射程に入れている。畦畔・水管理は構成員が行うが、これに対応できない場合、班組織等に対応していく。地域資源の維持管理は集落が継続して行っていく。</p> <p>熊本県大津町の事例は、旧村領域を越える広域で集落営農が合併して12集落で構成される超広域的な集落営農法人である。(株)J法人が存続法人となり、他の集落営農がこれに参加して組織化された。本社が参加集落の意向をふまえて作付計画し、集落単位で効率的に生産が行われる。構成員が圃場の管理作業に従事し、圃場管理料を受け取ることで農業への参画を確保している。集落農業を維持することと、地域の新規就農者を育成するという二つミッションを同時に実現している。JA、自治体も資本参加する地域営農法人という新しい形態での経営である。</p> <p>集落を基礎とすることが農地の分散を回避し、効率性を担保するうえでも重要となる。3事例研究を通じ、それが集落の領域を越えて大字・旧村領域を範囲とするところまでに広がる論理を抽出した。農地基盤整備による区画拡大、それにとまなう農業機械の大型化・高性能化、さらにスマート農業への展開など農業技術への対応という面からも、今後こうした動きは継続するものと想定できる。</p> <p>集落域をこえた営農組織の再編により、農地の集約化が進み、経営規模が拡大し、規模の経済の発揮により農業所得は向上した。これに農協が主導的に関わることで、営農組織の再編が進み、この過程で集落域を超えた新たなネットワーク型コミュニティーが形成され、地域が活性化された。3事例とも農協を主軸として営農組織再編を通じた農山村地域の活性化モデルとして位置付けることができる。</p>
-------	--